

第3回地震等災害被害予測調査検討有識者会議での主な意見への対応

番号	発言者	内容	頁	対応
1		各市町村の最大震度について、前回調査から極端に小さくなる地域は一覧で確認できるようにしてほしい。	18	【資料1】地震動・液状化・土砂災害の想定結果（速報） ご指摘の通り整理する。
2		本調査において想定していない地震により、今回想定している以上の揺れも起こり得る。誤解を招かないように別の計算をするのか、記載を工夫するのか、何かしらの対応が必要である。マグニチュード6.8規模の点震源を地域内にランダムに設定し、想定される最大震度分布を評価する検討を進めている県もある。	全体	【資料1】地震動・液状化・土砂災害の想定結果（速報） 鳥取県西部地震を参考にMw6.8の地震を各市町村役場直下に設定し、簡便法により地表地震動を計算する。
3		最大震度は1メッシュでもあれば最大震度としているのか。他県では10メッシュ以上ある震度区分から最大震度を求めるケースもある。市町村ごとの最大震度は住民もメディアも注目度が高い。誤解を招く公表の仕方とならないよう、今回どのような形で公表するのが良いか、検討してほしい。津波も同様のことが起こり得るので留意してほしい。なお、市町村ごとの代表値を公表する場合には、その算出方法についても併せて明示しておくことが望ましい。	18	【資料1】地震動・液状化・土砂災害の想定結果（速報） 前回調査では1メッシュでもあれば最大震度の扱いとしており、今回も同様であった。公表の仕方は引き続き県と相談して決定する。試算として、各市町村の最大震度階級と占有面積が最も多い震度階級の各面積割合を整理する。
4	奥村委員	被害想定の結果のユーザーとして、土木部署や道路部局、物流など、行政サイドのユーザーを念頭に置くと良い。結果を示すだけでなく、具体的な対策との関連を示し、どのような対策に繋げるための被害想定なのか、一度整理すべきである。	全体	【資料1】地震動・液状化・土砂災害の想定結果（速報） 具体的な対策の進捗については、各関係部署に確認したい。
5		p5の「～1981年」と記載されているが、「1981年～」の間違いではないか。	5	【資料3】建物・人的被害の予測手法（案） ご指摘の通り修正する。
6		津波の避難速度については、要配慮者だけ低下するのか、要配慮者をサポートする人も低下するのか。サポートする人も想定するのであれば、要配慮者1人にあたりサポートする人をどの程度見込んでいるのかも記載してほしい。	18	【資料3】建物・人的被害の予測手法（案） ご指摘の通り追記する。
7		災害関連死について、p2に「熊本地震から設定」とあるが、熊本地震の事例は原単位として使用しないため、「能登半島地震など過去の実績値から設定」等の記載に修正した方がよい。また、算定の際には能登半島地震の最新のデータに置き換えて計算するのが良いと思う。最大避難者数の算出方法についても注意してほしい。	2	【資料3】建物・人的被害の予測手法（案） ご指摘の通り修正する。避難者数の算定方法については第4回会議にて示す。
8	中尾委員	三島村について、前回調査ではポーリングデータがあるが、今回はないように見えるので確認してほしい。	3	【資料1】地震動・液状化・土砂災害の想定結果（速報） 改めてポーリングデータの再整理を行った。
9		色分け表のN値が連続していない。	7	【資料1】地震動・液状化・土砂災害の想定結果（速報） ご指摘の通り修正する。
10	酒匂委員	シラスの揺れが大きめに出る場合、大規模盛土の場所や安定性は反映できるのか。できれば考慮してほしい。	40	【資料1】地震動・液状化・土砂災害の想定結果（速報） 大規模盛土の位置情報、宅地カルテ（調査報告書）を収集した。シラスの揺れが大きめに出るような地域について、DEMデータと併せて大規模盛土の情報を示す。
11	柿沼委員	液状化の評価において、地下水位の天候による差はどの程度影響するのか、報告書に記載してほしい。	34	【資料1】地震動・液状化・土砂災害の想定結果（速報） 地下水位の採用値を四分位数という安全側の想定にすることにより、天気や季節変動は考慮したものとしている。報告書に記載する。
12	地頭園委員長	山地災害と土砂災害警戒区域は重なっていると思うが、どのように評価するか方針は決まっているか。	40	【資料1】地震動・液状化・土砂災害の想定結果（速報） 山腹崩壊危険地区のデータを現在入手中で、入手後に土砂災害警戒区域との重なりを確認し、方針を決定する。
13	磯打委員	津波による人的被害について、共助の力で避難すると効果があるということが示せると良い。共助の内容についても反映できると良い。	18	【資料3】建物・人的被害の予測手法（案） 報告書にて定性的に記載したい。

番号	発言者	内容	頁	対応
14	柿沼委員	津波の予測について、河川課では地球温暖化を考慮した検討を行っている。本想定では、それを考慮するのか、別個にやって比較するのか。	全体	<b>その他</b> 被害想定では、現時点の潮位を使用して浸水想定を行う見込みである。気象変動に応じた検討は河川課の結果を確認したうえですり合わせを行いたい。計算結果が違う場合は、どのような要因によるものか、鹿児島県としてどちらをスタンダードとすべきか、確認を行う。
15	入江委員	液状化は離島や本島の行き来など、インフラに影響を与えると想定される。そういった内容が見える化できると良い。	全体	<b>その他</b> 水上輸送ルートの評価等において、定性的に評価を行う。
16	気象台長	報告書は住民が見て分かりやすい資料になるようにしてほしい。	全体	<b>その他</b> 住民にも分かりやすい資料となるよう、工夫する。
17	福和委員 (5/12ヒアリング実施)	L1想定について、L2想定よりもきちんと検討した方が良いのではないか。モデルについては、日向灘の地震や安政南海地震モデル、宝永地震モデル等を参考に設定してはどうか。	津波	L1想定については、被害想定調査スケジュールとは別枠で試算を行う。採用モデルは県や先生方と協議のうえ、今後検討する。
18		活断層地震は距離減衰式による計算でも構わないのではないか。本当に統計的グリーン関数法で計算すべきなのか、なぜその手法を用いるのかが説明できるようにした方が良い。	地震	ご指摘の通り整理する。
19		地下構造モデルについて、J-SHIS以外の地盤データがあるかは確認しているか。鹿児島大学等でデータを整理していないか。	地震	人工密集地である鹿児島市内では、鹿児島大学から提供して頂いたデータを活用し、浅部地盤モデルへ反映している。 また、県内に広く分布する火砕流堆積物については、堆積年代の違いを考慮した微地形区分の細分化を行い、浅部地盤モデルへ反映した。 深部地盤モデルは、整理中だが目ぼしい既往研究は見つかってない。
20		揺れやすさの分布と人口分布、重要施設（庁舎やエネルギー施設、取水施設、都市ガスの供給エリア、主要発電所など）を重ね合わせ、どのエリアにおいてどのような被害を注視すべきか、先に検討しておくべきである。	全体	順番は前後してしまうが、第3回会議にて確定したハザード情報と作成した重要施設データを重ね合わせ、定量的な被害想定だけでは把握しきれない被害の可能性について、確認する。
21		長周期地震動の評価は行わないのか。鹿児島県において、高層ビルや油槽所があるのであれば、よく検討した方が良い。県全域を網羅しなくても、観測記録を使って限定的に実施することは可能なのではないか。	地震	長周期地震動の影響を受ける高層ビル、油槽所等の位置を整理する。対象地点を検討の上、観測記録を使った解析について、検討可能かどうかを確認する。
22		南トラにおける80km以上の減衰特性をどのように扱うのか。最終的に改良前後のどちらを採用するのか。またその理由はなにか、整理しておいた方が良い。	地震	鹿児島県は、南海トラフ地震の震源から離れており、改良による影響が大きいことは確認済みである。よって、距離減衰項の改良は実施予定である。